

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉱業振興費

事業名 試験研究機関受託研究実施事業費（商工）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部産業イノベーション推進課 電話番号：058-272-1111(内3744)

イノベーション推進係

E-mail：c11352@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 7,500 千円 (前年度予算額： 7,500 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	7,500	0	0	0	0	0	7,500	0	0
要求額	7,500	0	0	0	0	0	7,500	0	0
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

県内産業の技術向上・高度化・活性化のため、中小企業等では実施が困難な研究課題を県が受託して実施。

(2) 事業内容

企業等が抱える研究開発に関する問題について、県試験研究機関が所有する、人材、機材及びノウハウを用いて有料で試験を行い、そのデータを提供。

(3) 県負担・補助率の考え方

本事業の財源は全て諸収入（企業等の負担）による。

(4) 類似事業の有無

健康福祉部、農政部、林政部で各所管の試験研究機関に対する同様の事業を実施している。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	500	現地試験や打ち合わせのための職員旅費
需用費	6,600	実験資材、実験機械の燃料・電気料等
役務費	300	委託者との連絡、資料資材の輸送などの通信運搬費
使用料及び賃借料	100	受託研究に必要な機器の使用料
合計	7,500	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

3 地域にあふれる魅力と活力づくり

(2) 次世代を見据えた産業の振興

(2) 過去の受託実績

年度	件数	受託金額(千円)
平成30年度	11	4,222
令和元年度	10	3,705
令和2年度	8	2,768
令和3年度	6	2,281
令和4年度	7	2,832

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

中小企業等では実施が困難な研究課題を、企業等から受託して県の試験研究機関が実施することで、県内産業の技術向上・高度化・活性化を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R6)	達成率

○指標を設定することができない場合の理由

中小企業等では実施が困難な研究課題を、企業等から受託して県の試験研究機関が実施する研究であり、企業等の経営判断、企業体力、製品開発意欲等に影響されるため、指標の設定は困難。

（これまでの取組内容と成果）

令和3年度	<p>企業等が抱える課題を解決することで、企業等の技術力向上や新製品の開発等に貢献した。</p> <p>【令和3年度に受託した研究課題】 6 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品科学研究所「各種澱粉の糊化・老化特性に関する研究」（154千円） ・生活技術研究所「建築用木質部材のリサイクル手法の検討およびボードの試作開発」（350千円） <p style="text-align: right;">他 4 課題</p>
令和4年度	<p>企業等が抱える課題を解決することで、企業等の技術力向上や新製品の開発等に貢献した。</p> <p>【令和4年度に受託した研究課題】 7 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セラミックス研究所「セラミックス材料の成形、脱脂、焼成、加工検討」（1,100千円） ・生活技術研究所「小径広葉樹材の短期乾燥技術の実用化に向けた性能評価」（440千円） <p style="text-align: right;">他 5 課題</p>
令和5年度	令和7年度当初予算にて追加

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	中小企業等では実施が困難な研究課題を解決する事業であり、必要性が高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	企業等が抱える課題を解決することで、企業等の技術力向上や新製品の開発等に貢献し、事業の有効性は高い。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	受託研究は、研究課題毎に委託企業等との綿密な打ち合わせをしながら実施しており、効率化は図られている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 企業等が抱える幅広い課題に対応するため、試験機器の計画的な整備・更新を行う必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 企業等が抱える課題を解決し、新製品開発に貢献する等の有益性が認められることから、今後も継続実施する必要がある。
--